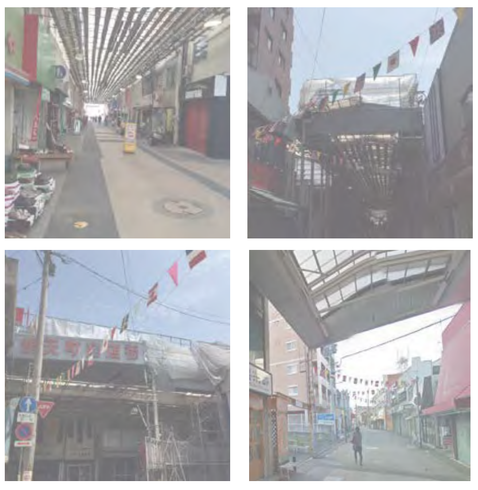
空洞化市街地の再生を目的とした
マンションのコンバージョン

cy12035　藤麻希子

現在日本には、空き家や空き店舗が増加し活気を失っている街が多く存在する。私が生まれ育った福岡市博多区の町もそのひとつである。かつて商店街を中心に賑わったこの街の再生を目的とし、現在空室が目立つマンションのコンバージョンを提案する。

Site

対象敷地：福岡県福岡市博多区　F2 ハイツ
西鉄雑餉隈駅から徒歩 1 分。雑餉隈駅直結の商店街がある。天神・博多まで電車で 20 分以内。その立地の良さからかつては賑わっていたが、現在はシャッター商店街である。



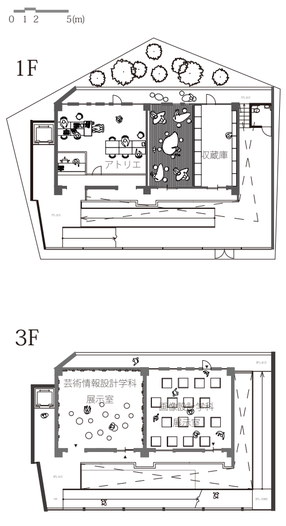
Before

F2 ハイツ 築 25 年、RC 造、4 階建、全 16 室全室 1DK

After

高齢化や人口減少が顕著なこの街に、学生の活発な活動の拠点を設け、それを街に開くことで街の活気を取り戻すきっかけになるのではないかと考えた。そこで、F２ハイツを九州大学芸術工学部の為の美術館にコンバージョンすることを提案する。

Floor Plan



section

現在の２住戸を１室に併合して５つの展示室を作り、５学科それぞれの学科の特徴を表した展示室を提案する。その他に、受付兼アトリエ、収蔵庫、学科紹介室をそれぞれ配置し、増築したスロープで 1~4 階を繋げる。

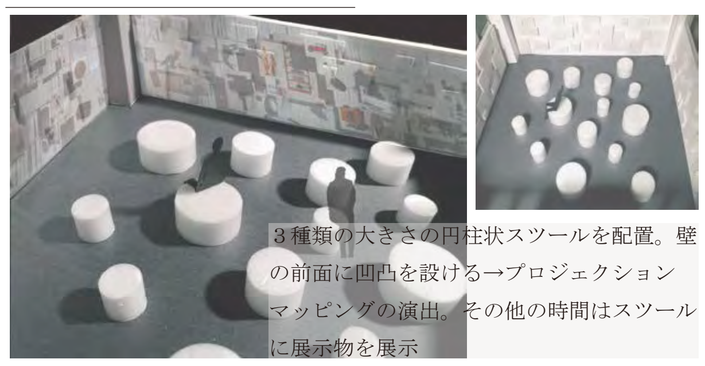
環境設計学科室

RC 打放しの部屋。木造の壁で空間を区切り、天井付近に動線を促す曲面の鉄板。建築を作る代表的な３つの素材を使う→部屋全体で景色の移り変わりを感じる

音響設計学科室

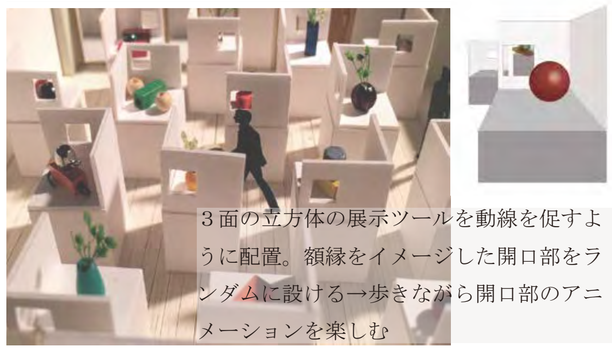
音の振動や波長を視覚化した凹凸を壁面に設けた音響室。その凹凸を利用して展示

芸術情報設計学科室



３種類の大きさの円柱状スツールを配置。壁の前面に凹凸を設ける→プロジェクションマッピングの演出。その他の時間はスツールに展示物を展示

画像設計学科室



３面の立方体の展示ツールを動線を促すように配置。額縁をイメージした開口部をランダムに設ける→歩きながら開口部のアニメーションを楽しむ

工業設計学科室

１枚の鉄板が形を変えながら部屋全体を回遊することで、水平部分は展示棚になり、天井部分には際う品を吊り下げて展示する

学科紹介室

学部単体で行われている学園祭やワークショップなど、あらゆる活動の様子を展示

受付兼アトリエ

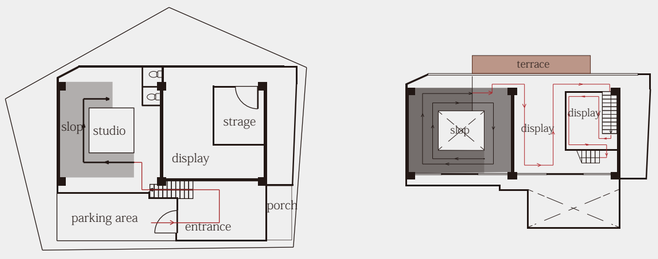
ラウンジ　収蔵庫

Process

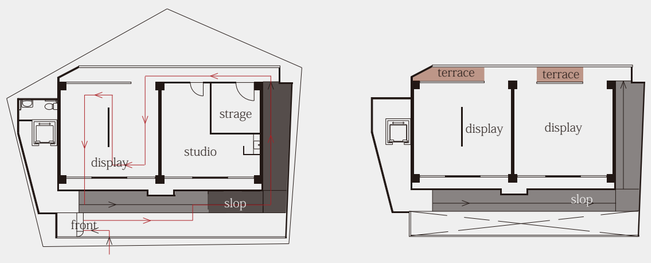
【既存建物模型製作】
1/50 で現況模型を製作。

【比較検討】
RC まで含めた大幅改変 PlanA と、増築工夫 PlanB の 2 案をスタディーし比較検討

Plan A　2.3 階の床を抜き 2 階建にし、階高を確保。建物内部にスロープを設けて展示。



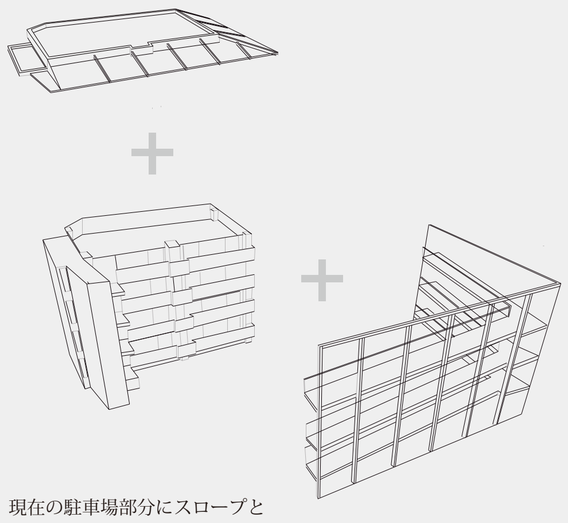
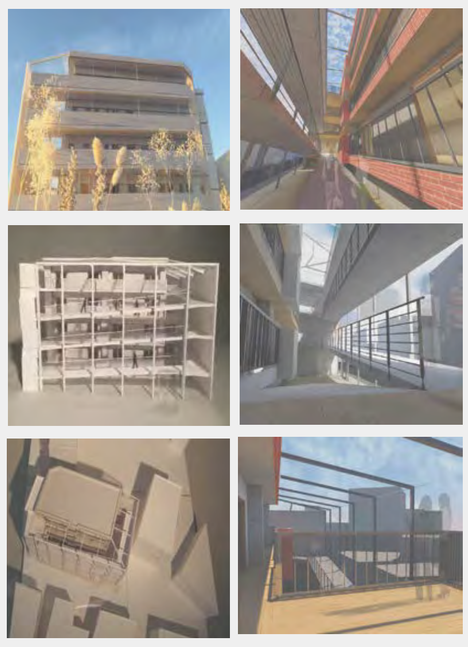
Plan B　既存構造には手を加えず、現在の外壁が内壁になるよう、現在の駐車場部分にスロープや吹き抜けを増築。



項目	メリット	デメリット
PlanA	既存の外観、内部共に大きく変えることができる。	床や壁に大きく手を加えるため、コスト面から現実的でない。
PlanB	増築の工夫によってあらゆる可能性現実的。既存と増築のコントラスト	既存構造を残すため、外観、内部共に大きな改変が難しい

→　増築工夫　Plan B

【増築部分】



現在の駐車場部分にスロープとガラス屋根を増築。